Newsletter　URL www.savechildren.or.jp　0120-317-502

world's children

Save the Children JAPAN　発行元 社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
〒103-0021　東京都中央区日本橋本石町3-2-6 ストークビル 8 F　Phone:03.3516.8922

Winter 2006　vol.38

セーブ・ザ・チルドレンのグローバルキャンペーン

「Rewrite the Future ～いっしょに描こう！ 子どもの未来～」がスタートしました

Rewrite the Future

「Rewrite the future ～いっしょに描こう！ 子どもの未来～」とは

世界には紛争によって学校に行けない子どもたちがたくさんいます。紛争地への緊急支援の中で、教育は緊急度が低いと考えられ、後回しになりがちです。

「Rewrite the future　～いっしょに描こう！ 子どもの未来～」は、紛争の犠牲となっている子どもたちに教育の場を提供し、安全な環境と未来を変える力を与えることを目的にした教育支援キャンペーン。2006 年から 2010 年の 5 年計画で、世界中のセーブ・ザ・チルドレンのメンバーが一丸となって取り組みます。

教育の大切さ

すべての子どもたちは教育を受ける権利を持っています。しかし、紛争のもとで子どもたちは学ぶ機会を奪われるばかりか、その命すら危険にさらされ、さらに、労働を強いられたり、家族の面倒をみるために、たとえ紛争が終わっても、学ぶ時間を犠牲にしなければならない状況に追い込まれがちです。

教育は、そのような厳しい環境にある子どもたちを守ることもできる大切なものです。子どもたちが生きていくために、読み書きや計算ができることはたいへん重要なこと。保健衛生の知識は、子どもの健康を守る助けになりますし、紛争の影響を受けている地域では爆弾や地雷に関する知識が命を守ります。さらに、学校という場は、子どもの安全を守り、子どもたちが集まり、共に学び、あそぶことで心の傷をいやす役目も果たすのです。

セーブ・ザ・チルドレン 3 つのチャレンジ

「Rewrite the future　～いっしょに描こう！ 子どもの未来～」は、紛争によって学校に通えない何百万もの子どもたちに、教育の機会をつくることを目指した世界に向けた挑戦です。

セーブ・ザ・チルドレンは、

- 300万人の子どもたちへ教育の場を提供します。プラス500万人の子どもたちに適切な教育を提供します。
- 学校が紛争の影響を受けている子どもたちを保護する安全な場となるように活動します。
- 紛争下の子どもたちへの教育に、より多くの支援をさしのべるように、各国政府と国際機関に促します。

活動を行う地域

「Rewrite the future ～いっしょに描こう！ 子どもの未来～」は、現在 18 か国で支援活動を行っています。

アフガニスタン、ネパール、アンゴラ、インドネシア、ウガンダ、カンボジア、グァテマラなど 18 か国。

来年以降、もっと支援の対象国を増やしていきます。セーブ・ザ・チルドレン世界連盟の各メンバーが、共通の目的を持ち、活動することで、各メンバーの長所短所を補完し合い、活動をより大きく、効率的にしていけると考えています。

SCJの活動

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン（SCJ）は、駐在員を派遣しているアフガニスタンとネパールで、このグローバルチャレンジに参加します。各国のセーブ・ザ・チルドレンと協力をはかりながら、支援活動をより活発化していきます。



アフガニスタンでの支援

アフガニスタンでは、7 歳から 13 歳の子どもの就学率は 54%。女子の就学率は、男子の半分です。長年にわたる戦争で、多くの学校が破壊され、多くの教員が難民として国を去ったり、殺されたりしました。教員数は足りず、十分な訓練を受けていません。内戦終了後の 2002 年には、小学校高学年生が、低学年を教えているようなクラスもありました。

アフガニスタンでセーブ・ザ・チルドレンは、2010 年までに 36,000 人の子どもたちが新たに学校に行くようになり、この子たちを含む 134,000 人の子どもたちがよりよい教育を受けるようになることを目指しています。

ネパールでの支援

ネパールでの紛争はあまり知られていませんが、1996 年に始まった反政府武装組織とネパール王国政府との武力衝突の結果、1 万人以上の犠牲者が出ました。そんな情勢の中、子どもの教育は危機に瀕しています。少なくとも 38,000 人の国内避難民が発生しており、その 40% は子どもと見られています。反政府組織が呼びかけるゼネストのため、2004 年に公立小学校では 65% ほどしか授業を行えませんでした。

さらに、反政府組織が政治教育や徴兵のため、子どもたちを学校から強制的に連れ去ることもありました。戦闘に巻き込まれたり、仕掛けられた爆弾に触れて亡くなった子どもも 400 人にのぼっています。

ネパールでセーブ・ザ・チルドレンは、50 万人の子どもたちに教育の機会を提供し、合計 150 万人の子どもたちが、より質の高い教育を受けられるようにすることが目標です。

スーダン南部の学校の 1 年生　©Anna Kari



DATAで見るSC
セーブ・ザ・チルドレン

日本の支援はまだまだ微力。寄付額世界トップ10と日本。

このグラフは、1年間のセーブ・ザ・チルドレンの国別収入を示したものです。
欧米の国々にくらべ、日本での数字は、まだまだけた違いに少ないというのが現状です。
皆様のご寄付の1件1件の積み重ねがこの数字をつくります。
セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは、これまで以上に世界の子どもたちのために
活動していきますので、ご協力をお願いします。



アメリカ 396,622,000



イギリス 295,951,339



スウェーデン 75,654,298



ノルウェー 71,654,940



オーストラリア 33,130,014



デンマーク 24,616,593



フィンランド 16,453,958



カナダ 11,716,742



イタリア 11,706,666



オランダ 11,580,667





日本 6,449,243（US＄）

数字は、2005年、あるいは最近12か月で活用可能な収入を示したもの。
各国の通貨をその年の平均相場で米ドルに換算しています。

ご寄付のお願い

「子どもたちの力になりたい」あなたの気持ちと子どもたちをつなぐセーブ・ザ・チルドレンの活動に力を貸してください。
ご寄付は以下の方法からお選びいただけます。

●チャイルド・リンクは地域を選んで子どもたちを支援する継続サポートです

チャイルド・リンクは、アジア、アフリカ、ラテンアメリカから支援したい地域を選んでいただけます。チャイルド・リンクに参加いただくと、「代表の子どもからのメッセージが入った定期レポート（年2回）とグリーティングカード（年1回）が届きます。代表の子どもの成長を通じて、支援を実感いただけます。
（月々3,500円〜）

●SCサポートは世界中の子どもたちを支援する継続サポートです

ＳＣサポートは、セーブ・ザ・チルドレンの活動全体をサポートしていただくプログラムです。地域や事業を問わないので、いただいたご寄付はその時々に応じて必要な場所で必要な事業に活かされます。ＳＣサポートに参加いただくと、セーブ・ザ・チルドレンの活動内容がわかる定期レポート（年2回）とグリーティングカード（年1回）をお届けします。
（月々1,500円〜）

●一般寄付

ご寄付や募金は、随時受け付けております。振込手数料免除の下記口座をご利用ください。

振込先：郵便振替口座00900-1-120760
加入者名：セーブ・ザ・チルドレン子ども基金

※税控除について
セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは、特定公益増進法人として外務省の認可を受けています。いただいたご寄付は、一定の要件下で控除の対象となります。申告の際には、「特定公益増進法人の証明書」と「寄付領収証」が必要になりますので、必要な方は事務局までご連絡ください。

Save the Children JAPAN
詳しくは下記のフリーダイヤルかメールでお問い合わせください。
0120-317-502（平日9:30〜18:00）
e-mail：info@savechildren.or.jp


スーダンで水汲みをする子どもたち

From SCJ

セーブ・ザ・チルドレンは、世界中をあげて取り組むキャンペーン「Rewrite the future ～いっしょに描こう！子どもの未来～」をスタートさせました。このグローバルキャンペーンへの取り組みを機に、私どもセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンも、その活動についてより多くの方々に知っていただきまた、ご理解とご協力をいただくため、今後積極的にキャンペーンを展開していきます。

まずは、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンのウェブサイト上で、「Rewrite the future」のページを立ち上げ、ネットを通して広くこのキャンペーンを訴えかけています。また、この秋からは「Rewrite the future」をテーマに、日本の子どもたちを対象とした「文化祭キャンペーン」を展開中。今後は、国連機関をはじめ、さまざまな団体との共同活動を検討していきます。

社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは、今年設立20周年を迎えました。その節目の事業として、「子どもの権利」を機軸とする20周年記念プロジェクト「子どもの権利推進・研究センター」（仮称）の設置を構想しています。

また、20周年を機に新しいロゴマークをつくりました。世界統一のセーブ・ザ・チルドレンのロゴマークに「JAPAN」と明記したデザインです。これは、いわゆる日本支部という位置づけではなく、独立した日本の団体であることを明確に伝えると同時に、日本の団体として、80年以上の歴史を持つセーブ・ザ・チルドレンの世界最大規模の国際ネットワーク海外でのリソースや活動経験を活かして、日本の子どもたちのために国内活動を展開していくシンボルとなります。

さらに、今号からこのニュースレターも大きくリニューアル。より読みやすく、わかやすい形で、私どもの活動状況やホットな情報をを皆さまにお伝えしていこうと考えております。

これからも、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの活動にご理解とご協力を賜ることができれば幸いです。

社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
理事長　上野昌也
理事・事務局長　渋谷弘延


セーブ・ザ・チルドレンが建築したウガンダのキャンプの学校で、歌を歌う小学生　©Anna Kari

パートナーニュース Partnership

「Rewrite the Future～いっしょに描こう！子どもの未来～」キャンペーンの対象国である、アフガニスタンとネパールの事業をご支援いただいている企業や団体をご紹介します。

アフガン・バーミヤン県で「教員研修事業」と「識字教室事業」

●西本願寺



浄土真宗本願寺派より、ご支援をいただいているのは、バーミヤン県での「教員研修事業」と「識字教室事業」です。３週間にわたる泊り込みの教員研修２回は今年の冬休みに終了しました。現在は、７歳から45歳の男女392人が識字教室19ヶ所で勉強中です。週６日、毎日２時間の教室で９ヶ月学び、小学校３年生までの内容を修了します。エルガナ村の少女（12歳）は、「勉強は大好き。目標は隣町の小学校へ編入することよ。試験がんばらなくっちゃ」と言っていました。

ネパールの教室増築と教育支援



●くふ楽

ネパールでは、マオイスト（ネパール共産党毛沢東主義派）と政府軍の抗争により、多くの子どもたちが影響を受けました。株式会社くふ楽には、サプタリ郡ハリプール村バサンパッティ公立小学校の教室増築と教育支援でご協力をいただいています。現在は、教室不足のため木の下で授業を受けたり、教室はあっても床は土のまま、机もいすも足りない、といった状況ですが、この事業によって学校環境が整い、より多くの子どもたちが学校に行けるようになることでしょう。

アフガンの健康・栄養改善支援事業をサポート

●南陽食品

アフガニスタンの北部、サリプール県では、「基礎教育と学校栄養保健事業」が進んでいます。これは、和歌山県の南陽食品株式会社から、セーブ・ザ・チルドレン・藤原紀香アフガン基金を通じてご支援いただいている事業です。研修を受けた村人が先生となり、栄養のある食物、下痢やかぜの予防と治療など、子どもたちに保健や栄養について教えています。また、簡単な応急処置の方法についての研修が行われ、救急箱も配られました。合計1,155人の子どもたちが参加しています。



アフガン、ネパールで事業を支援



●ファミリーマート

株式会社ファミリーマートには、アフガニスタン、ネパール両国での活動にご支援をいただいています。アフガニスタンのバーミヤン県バーミヤン中心地およびサイガン郡では、子どもたちの小学校就学率・定着率を高めるための啓発活動として、村の青年による劇団をつくり、子どもたちや村の人たちに教育の大切さを訴える劇を上演し、高い効果を上げています。ネパールでは、サプタリ郡およびダヌシャ郡の公立小学校２校の教室増築や教育支援事業へのサポートをいただいています。

天皇、皇后両陛下ご台臨のもと、SCJ創立20周年記念チャリティ・ガラ開催



2006年5月17日、「セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン創立20周年記念チャリティ・ガラ」が天皇、皇后両陛下のご台臨を賜り、帝国ホテル・富士の間で厳かに開催されました。

20周年を記念する式典では、20年間の歴史や活動報告のスピーチがあり、セーブ・ザ・チルドレン世界連盟理事長クラーク氏のスピーチで、セーブ・ザ・チルドレン英国総裁であるアン王女からのメッセージも紹介されました。今年のコンサートは、イギリスが世界に誇るゴールデンボイス、ラッセル・ワトソン氏（テノール）と、スイスを拠点に活躍するソプラノ歌手、林正子氏がチャリティ出演してくださり、すばらしい歌声を披露、大いに盛り上がりました。

この催しは、MHDディアジオ　モエ　ヘネシー株式会社のご協力のもとに、1987年のSCJ創立以来毎年開催されているもので、会費や寄付は、セーブ・ザ・チルドレンの活動を通して、世界中の子どもたちを支援するために役立てられます。

Topics!

ベストセラー「鏡の法則」の売上を子どもたちのために



2006年5月の発売以来、60万部を超えるベストセラーとなっている「鏡の法則」（野口嘉則氏著　総合法令出版刊）。この本の売上の一部（本体価格952円の５％）が、著者・野口氏のご意向により、セーブ・ザ・チルドレンを通じて世界の子どもたちの役に立てられています。ここに、野口氏からいただいたメッセージをご紹介します。「あるきっかけで世界には食べるものもない、教育を受けたくても受けられない子どもたちが大勢いることを知ったとき、大きなショックを受けました。自分なりに何かできることをしたいと考えた結果、本の売上の一部寄付ということを思いつき、いろいろと調べた結果、、セーブ・ザ・チルドレンを寄付先として選び、総合法令出版にも快諾いただきました。拙著の売上の一部が、微力ながらも世界の子どもたちの役にたつと思うと、著者としてたいへんうれしいです。セーブ・ザ・チルドレンには、支援の機会を提供していただき、感謝しています。」